

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ろうけん大楠 グループホームたんぽぽ
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県始良郡蒲生町下久徳1251
記入者名 (管理者)	花田 さつ子 (すみれ主任)
記入日	平成 21 年 9 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	開設時に掲げられた理念に基づき、入居の方のケ アや日々の生活の中に地域に関われるように支 援、関係が保てるように理念をつくっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念の中に安心して自分らしく暮らせるようにと していますが、個々の入居者様のケアについて日 ごろからミーティング等で確認しあえるようにし ている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に大きく掲示してある。 入居者契約時には必ず理念の説明をしグループ ホームへの理解をしていただけるように努めてお り便りの発行によりご家族様、ボランティアの方々 連絡推進協議会の方、民生委員、の方々等ご理解い ただけていると思う。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ 合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	地区の行事ゲートボール大会、運動会、あじさい サロンへの参加や、近隣の方々と挨拶等するよう に努め通りがかりに挨拶もして下さっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、 自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、 地元の人々と交流することに努めている	地区総会で公民館長から地区の皆様方にグループ ホームの紹介をしていただいたり、地域で行われ る催しサロンや蒲生市、地区の運動会、美化活動 等の地域活動にも参加をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	消防署による救急救命は、毎年行っているが、地域の方々にも参加の声かけをおこなったり、施設行事があるときは回覧板やポスターで近隣方々に知らせ気軽に来ていただけるようにしている。地域の中学校、高校のボランティア実習の受け入れをしている。	○	地域の中学校、高校のボランティア実習の受け入れ、演芸ボランティア、その他ボランティア活動を通して関係を深め支援して行ける様に今後も継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、自己評価は全員で行っている。評価をもとに職員会議や日々のミーティングなどで振り返り、日常のケアの向上に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者の家族、役場職員、民生委員、公民館長、老人会会長、包括支援センター職員の方々の協力を得、活動報告、意見や質問、助言などをいただき結果報告を行いサービスの向上に活かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場窓口や包括支援センターには、折に触れ訪問をし事業所での相談や利用者の方々の便宜を図るようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修をしているがまだ熟知できた状態でないので今後も勉強会を開き理解を深められるよう取り組み必要な家族や必要に応じては専門機関への紹介または専門機関との連携によりこれから相談、支援をするようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待についてミーティング等で確認を行っている。 高齢者虐待防止関連法については今後随時勉強会をし再認識するような機会を設けるように努めている。	○	何気ない言葉づかいや態度などが利用者に対して虐待に繋がらないかを常に意識したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は施設管理者による説明によりご家族がご理解できるように丁寧に説明がなされている。また退去時の対応においても家族が納得いかれ安心できるように相談に応じ同意を得るようにしている。	○	重度化や終末期などの対応は、主治医との連携を兼ね、家族と相談、利用者本人の状態を確認しながらご家族様に同意を得るようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の意見や不満は日常的に発言できるように働きかけ、声かけや話しやすい雰囲気作りもしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時日常の状態報告、遠方の方は電話が定期的にあるためその時に日常状態報告、施設からはケアプラン更新時に日常の状態報告、2月に1回お便りにて、金銭出納簿については毎月の控えを月に1回ご家族に送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、電話や面会時等積極的に常に問いかけなどしてなんでも話していただけるように声かけを行い、出された意見、要望等、職員のミーティングで話し合い運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、意見など言いやすい雰囲気作りにも努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族や利用者の状態変化に合わせ、それぞれに必要な支援ができるように努めている。又、職員とは常にその状況に合わせ話し合いながら勤務の調整に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係づくりには、日頃から努力をしており移動や離職がやむ得ない場合も、なるべく利用者、ご家族様には迷惑がかからないようにコミュニケーションを図るようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるように声かけを行っている。又、ミーティングで発表できるようにその機会を作っている。また、資格取得に向けた支援に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム研修に参加、近隣の事業所との交流の機会を持ち訪問、日々のサービや疑問点等相談を行い、ケアに活かしサービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員の疲労やストレスについて、一人で悩まないように話し合いや相談のできる雰囲気作りに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の健康状態や疲労等への配慮をし、勤務条件等の意見も取り入れたりしている。向上心をもって、意欲的に働けるように支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の事前調査の際の本人のこれまでの生活歴、日常生活における不安や心配事、食事の好み健康状態、服薬、家族関係、今後の生活における要望等についてお聞きして安心して入居できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面倒を見てこられ大変であられたこと、困っておられたこと不安なことなどお聞きして今後どのように本人様が生活されたいのか、相談、話し合いをしました状態変化に応じた相談、話し合いにより対応ができるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所申し込みに来られたご家族に対し今何が本人や家族には必要であるのかをしっかりと見極めグループホームで対応できない場合は他施設や病院等の紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、ご本人が判断できない場合、ご家族に来ていただいて、スタッフの状況やホームの雰囲気を見ていただき、十分に納得していただいた上で利用していただけるように配慮をしている。又、パンフレットによる案内も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人様の状態、把握により表情、様子、しぐさ、発語意思表示を受け止め安心して日常生活を過ごせるように支援している。 入居者間の助け合いや見守り、かばいあいや職員へねぎらいの言葉をかけてくださることもありよい関係ができている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態等を細やかに家族に報告することで家族の面会も増え家族と入居者間の関係もとてもよい状態でありまた面会時職員が他入所者様にしていることを見られ私たちの仕事を理解をしていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様にとって家族の面会がうれしいことを伝えることでと家族の方もそれぞれに察することがあられ昔は・・・だったけど年老いた姿を見たら少しでもできることや覚えているうちにといいよい関係ができ継続中。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族がなじみのパーマ屋さん、散髪屋さんへ連れて行かれたり、家族だけでなく友人知人の面会も快く受けまた近くを通られるときは声をかけてくださいとお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間での挨拶、見守り、助け合いなど日常生活の中で見られている。お盆で自宅に帰る人がいたら皆で見送りをしたり家族ではないのですが皆が助け合って生活している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方等には面会に行き状態確認をしたり今後について関係機関の方や家族の方との情報交換をされ施設の入所申し込みのアドバイスがされていた。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で何をしたい角のように暮らしたいかを聞くようにしている。表現がしづらい方は、ご家族と相談したりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過状況を把握しながら現状と照らしあわせなるべく本人の意向を尊重しながら馴染みの暮らし方、生活環境に近い部分があり納得できる状態で生活していただいている。 個別の悩みのある方には自室で伺えるようにしてあった。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員1人1人が必ず声かけし話す機会を設け心身状態確認ができるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見など聞いたり、職員全員で出意見交換や日々の関わりなどの中から、その方に合わせた、介護計画を作成するように努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月ごとに見直しを行い、ご本人やご家族の要望に沿えるように作成、状態が変化した場合には、期間が終了する前であっても検討見直しを行っている。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを受けた人が必要なことは本日のスタッフへ伝え1日のケアスタート。 経過記録、ケア会議により情報共有、ケアチェック表の利用により統一したケアができるように努めている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医につき2回の在総診を依頼、疾病について相談、診察や検査結果をご家族にもお知らせしている。緊急時や夜間の対応についても、主治医への連携、看護師、スタッフの対応、家族への連絡等も柔軟に対応できるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアさんの施設行事への参加や地域の中学生、高校生の福祉ボランティアの受け入れとうをしている。 年2回の消防訓練夜間想定の場合は入居者も参加している。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の定期的なケアマネ会参加、情報交換をしたり認知症ケア研修時他施設実習にて情報交換している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	訪問調査時、ケアマネ会、研修時情報交換ができています。	○	成年後見制度で今後協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医の定期的な受診の継続やご家族の同行不可能時や緊急性のある場合は、職員が代行するようにしており、ご家族には、受診報告も行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者様各位の主治医による受診時状態報告また状態変化時報告、相談し専門医の紹介を頂き受診		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設に看護師は常勤している為入所者様の状態を見ていただいたり状態変化の際は相談ができ、主治医との連携もとれるようになっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と連携が取れるように努力しご家族とも情報交換を行うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対しては、入所時に看取りの説明を行い、ご本人や家族の意向など、繰り返し話し合ったり、主治医との連携の下、十分納得できるような態勢で対応できるようにしている。状態変化については、日頃から早目の情報交換等を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の気持ちを大事にご家族様の意向を踏まえ、安心していただけるようにしている。又、その場面や急変時には、常にすぐ対応していただけるように医療機関と密に連携を図り、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人、ご家族様の了解を得必要な情報提供を他 の事業所へ提出し住み替えがスムーズに行えるよ うにしたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	居室の小窓に防災カーテンをつけてご本人のプ ライバシーが保てるようにした。面会時等、居室 のドアを閉めてプライバシー保護に努めたり、電 話の取り次ぎなど、居室で会話できるように配慮 している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけ たり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	理解されるまで説明しご利用者さまの意向を十分 汲んで対応させていただいている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	基本的には一日の流れの中で、利用者の状態や体 調に配慮し、状況によってはこちらから声かけな どの支援も行っている。 個人の誕生日でなく前後する事もあるがささやか な誕生日会をしている。	○	ユニットの中で個人の誕生日会継続。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 くように努めている	家族の協力によりなじみの美容室や散髪屋さんへ 出かけられる。又、施設内での理美容は出張サ ービスを利用して本人様の意向を汲んで散髪して いただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	色どりや盛り付けの工夫もして、目で楽しむ食 事をいただいている。お手伝いのできる方は、 下膳等できることをしていただいたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人様の意向を尊重し家族の許可を得て個人の健康状態に応じて焼酎、ポカリ、栄養ムース、好物など楽しんでいただいている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し時間を見て誘導したり様子やしぐさ、主張等によりさりげなく気持ちよく排泄できるようにしている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その人の体調や状況に合わせて入浴支援を行い、本人の意思確認を取りながら入浴していただいている。天然温泉であることをアピールして入浴への声かけを行い清潔感、爽快感を味わっていただいている。	○ お風呂に好きな方もおられますが、緊急に入浴支援の必要な方を優先する場合などもあり、希望に副わない事もあり、今後スタッフ全員で検討心掛けたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を知りその時の状況に応じて日により起床時間のずれ、休憩の時間を取り入れ気持ちよく穏やかに過ごせるように支援している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご自分のできることに興味を持っていただき協力しながら支援している。(洗濯ものたたみ、洗濯物干し、自室の掃除、整理、食器洗い、テレビを見ながら興味のあるニュースなどノートに書き込んだり)	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大部分の方が金銭の管理や日常の出納が難しくなっていることも事実であるが、お金を持つことの楽しみで家族の協力を得て少額を所持していただいている。	


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		地域のサロンに出かけたり家族の支援により墓参り、ドライブ、散髪、パーマ屋さん法事、外泊される方それぞれであり、今後も継続していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず見守りのできる位置にスタッフがいるようにしている。夜間は睡眠の妨げにならないように配慮、数時間毎に利用者の様子、容態を確認し、安全に努めている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くことはなく、利用者の状況によっては注意を促し、保管管理の必要なものに分けている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの個性や行動を見守り、予測される危険を検討、未然に防げるように声かけや見守りをしている。。ヒヤリハット、事故報告書を作成し、ミーティング時再度防止策を検討、勉強会などで意識付けを行っている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防署の指導により応急手当の講習をしていただき職員全員が受講している。また、利用者の急変時や事故発生時に備え応急手当や初期対応については、勉強会を行っている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、ろうけん施設への連絡、消化器の取り扱い訓練、運営推進会議等で公民館館長への協力依頼、地区消防団の施設見回りを実施。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時には気になるようなこと、状態変化など細やかに話している。状態変化があるときはすぐ家族に知らせたり必要に応じては今後起こりえるリスクについて家族に説明をし本人が穏やかに過ごせるように協力を依頼することもある。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排泄の状況、顔色、表情、しぐさなど変化の気づいた場合それ以前はどうだったのか状態を共有し看護師、主治医と連携を取って指示を仰いでいる。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変わるときは必ず引継ぎ等に記入もしくは在送診ノートをみて共有できるようにしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを付けてて状態把握に努めている。軽体操をしたりして体身体を動かしたり、1日の水分摂取量チェック等をしている。それでも出ない場合はDrの指示に従っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後必ず口腔ケアを行っており、できる人は自分でできない方は介助にてポリデント洗浄を行っている。朝、昼の食後やトイレに行ったときにもされる方がおられる。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェック表を毎日つけて職員は共有している。摂取量の少ない方は補水をしたり、栄養食品での補充をするなどその人に応じた支援をしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入所の際の感染症の有無検査済み。インフルエンザ予防摂取はされている。面会時や業者さん、外部の方の出入りは必ずマスクをつけていただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はなるべく新しいものを必要なだけ購入し残ったら早めに使いきるようにしている。 食器や調理器具は洗浄し乾燥機等を利用している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を少し植え玄関先から外を眺めたりされておられる。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはいつも季節を感じていただけるように花を飾り、季節感をだしている。また、西日が強い為にがうりを植え日よけにして花やにがうりが大きくなるのを観賞したり料理にも使い利用者にも喜んでいただいている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは食堂でもあり、またくつろぎの場としてテレビ視聴をされたりお話をされたりリハビリをされたり利用者様の自由活動の場でもあるので季節の花を飾ったり外の景色の移り変わりを楽しめるようにしている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品、連れ合いの写真、愛用して枕、や観葉植物の持ち込み等あり、その人らしく安心していただけるように工夫をしている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日中換気扇はつけてあり、朝天窓、窓を開け空気の入れ替えをし、体温調節のできない方は冷暖房の調節、扇風機の活用により外気とあまり差のないように調節して過ごし易い環境にしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	施設内はバリアフリーで車椅子も自由に走行でき るスペースで手すりも随所にあり、コールも各部 屋に設置されているため自立した生活ができるよ うに環境整備に努め又掃除等きちんとしている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	一人一人声かけをして意思表示を大切に一人 一人の状態に応じてADL、IADL、と区別しできるこ とは時間をかけても自分でされるように声かけ誘 導している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダに花を植えたり柑橘を植え水やりを日課 にしておられる入居者様おられるし夏場西日よけ ににがうりを植えて花やにがうりが大きくなるの を楽しみにされ採って料理に使ったりしている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	① ②職員の2/3くらい ③職員の1/3くらい ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等 ②家族等の2/3くらい ③家族等の1/3くらい ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの個性を大切に、日常生活を無理なく穏やかに過ごしていただき、「今何が必要か、何を求められているか」を見極めて支援していきたい。